様式１

# 【栄区】令和８年第３回区づくり推進横浜市会議員会議
# 議事録

| | |
|---|---|
| 開催日時 | 令和８年９月３日（木）　午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分 |
| 場　　所 | 栄区役所新館４階８・９号会議室 |
| 出 席 者 | 【座長】長谷川えつこ議員<br>【議員：２名】大桑正貴議員、輿石且子議員<br>【栄区：２８名】松永朋美区長、大野豊副区長、<br>雨堤崇福祉保健センター長、<br>横山涼子福祉保健センター医務担当部長、<br>丸山知明栄土木事務所長　ほか関係職員 |
| 議　　題 | （１）令和７年度個性ある区づくり推進費決算について<br>（２）令和８年度個性ある区づくり推進費執行状況について<br>（３）令和９年度栄区予算編成の考え方（案）について |
| 発 言 の 要　　旨 | （説明省略）<br>大桑議員：17 ページの居住促進・空き家対策によるまちの活性化推進事業について、令和８年度も実施するのか、また成果を人数等で示してもらうのは難しいと思うが、事業の狙いやどういう成果が出たかを聞きたい。<br>櫻井区政推進課長：居住促進・空家対策によるまちの活性化推進事業について、令和７年度、令和８年度ともに事業を実施している。内容としては、居住促進ＰＲ、空家未然防止セミナー・相談会の開催となっている。成果については、すぐに数字で成果が表れるものではないと思っているが、ＳＮＳやウェブ広告による情報発信の状況や、空家セミナー・相談会の参加状況等を確認しながら取り組んでいきたいと思っている。また、状況によっては関係局や事業所等の協力を得ながら、栄区の魅力発信や空き家対策を進めていきたいと考えている。<br>松永区長：補足だが、令和８年度の取組は 46 ページに載っている。具体的に調査したわけではないが、ＰＲにご協力いただいている不動産業者の話では、インターネットの広告などを見て栄区に興味をもったと言われることも、１～２件程度ではあるが、あったと聞いている。 |

| | |
|---|---|
| | 大桑議員：予算を使っているので、今の区長の発言のように、どこまでできるかは別にしても、話や声を拾っていただきたい。加えて、空き家対策もぜひ進めていただきたい。空き家にしない対策と、なってしまった後の対策といろいろあると思うので、ぜひまとめてやってほしい。<br>　いたち川や 40 周年事業は先ほどの栄区議員団会議でもあったが、うまくクラウドファンディングをやって、桜並木の整備や川の保全をしていると思う。一方で記念のことという話のときには、ある意味うまく活用すれば、桜がいいのか何がいいのかは分からないが、いたち川沿いに、それこそ今、警察学校でお祭りをやらせてもらっているが、そこのメイン通りだったりするので、そこに桜を残すというのはある意味分かりやすい成果、レガシーなのかなと思う。それがいいのかは分からないが、いろいろな形で予算をうまく使ってほしい。私の意見ということでお伝えする。<br>輿石議員：執行率について、居住推進や地域交通の項目で、極端に少ないと言うべきか分からないが 17 ページで執行率 67.1%。事業ごとでは 52.96%となっている。そういう視点で、年度の途中ではあるが、令和７年度の決算を今やっているので仕方がないとはいえ、この結果を踏まえて令和８年度の今の中間期に認識や視点の変更はあるのか。また、どういう予定で立てた予算がどうしてこうなっているのかを確認したい。<br>櫻井区政推進課長：不用額の説明だが、まちづくり推進事業はご指摘のとおり決算額は 381 万 4000 円で執行率が 52.96%となっている。<br>（２）地域交通環境等の向上・維持管理において、バス停上屋整備の補助金を計上していたが関係機関との調整等により８年度に設置を延期したことによる影響が大きい。執行の状況等を踏まえ、全体の中で調整してうまくやりくりした中での決算になると思っている。こういった状況を踏まえて予算編成等にも生かしていきたい。<br>輿石議員：バス停ということだが、市営バスではなくて、神奈中バスさん、江ノ電さんの協力をいただいている。バス停の屋根の設置は過去に困難があったのを、１年に１回、１か所という程度ではあるが、町内会から要望を上げていただいてようやくその流れができて、 |

| | |
|---|---|
| | 皆さんもすごく喜んでいる。そうすると、それが令和７年度は実施できなかったのか。<br>櫻井区政推進課長：７年度は調整に時間を要し、繰り越しているような形となっているため、８年度に設置する予定。<br>輿石議員：そうすると、年に１か所のリズムなので、８年度は２か所設置されると思っていいか。<br>櫻井区政推進課長：調整によって、すぐに設置ではないため、７年度に予定していた場所を８年度に整備する予定。<br>松永区長：地域の方から要望があった場所を中心に対応していくが、次の要望が今は届いていない状況なので、これから探していかなければいけないと思っている。<br>輿石議員：地域住民は声の届け方をそんなに分からない。バス停に屋根が欲しいという声は日常的に多く届く要望である。各町内会を通じて要望が出れば、精査の上で可能性はゼロではないということだが、一般の区民の方はそういった仕組みがなかなか分からない。神奈中さんの協力は絶対不可欠で、場所の設置に困難が伴うのは理解できるが、だからこそせっかくのチャンスを、１個ずつできるのをみんなじっくり待っているので、７年度分が１個できなかったのはあまりにももったいない。声が届かないからないという認識ではなくて、しっかりつかんでいくのが大事だと思う。区長を中心に各町内会のヒアリングをやっていただいている中でも暑さ対策やバスのことがたくさん出てきたはずだ。８年度は２か所設置するわけにはいかないのか。<br>櫻井区政推進課長：８年度は整備に向けて動いており、予定どおり執行する。この事業は自治会等地元の負担もあるため、それらも踏まえて調整が必要だと考えている。<br>松永区長：地域との意見交換会でバス停の上屋を伸ばしてもらいたいといったお話や、あるといいなというお話を頂いたが、補助がでる事業があることをご説明しつつ、様子を見ながら調整していきたい。<br>輿石議員：自治会町内会という組織そのものが日本全体で担い手不足というのが現代日本の課題であり、自治会町内会が必ずしも役所のように機能しているとは思い難い。積極的に町内会長をやりたい方がいるところもあれば、仕方なく輪番でやっているのが現実であ |

| | |
|---|---|
| | り、仕方がなくやっている方が積極的に町の改善策を強く言ってくることは考えづらい。その方たちに何か落ち度があるわけではなく、日本全体の社会課題として、町内会の担い手問題があるわけなので、頭の中に入れて対応していくべきだと思う。<br>長谷川座長：８ページ、新規事業の小１の壁不安解消事業について、本当にすばらしいところに着目し、しっかりと親御さんや小学校１年生になられるお子様たちへの啓発につながっていると思っているが、小１といってもどれぐらいの期間を考えているのか。通年を通してなのか、それとも、入学した子たちに対して夏休みの過ごし方など、１年間を通して全てが初めてかもしれないが、学校に通うことに大分慣れてきた子たちに対してはもう必要ないのではないかと思っており、入学されてからどれぐらいの箇月の子たちまでをめどにつくられているのか。<br>唐澤学校連携・こども担当課長：今回作成した小１の壁のウェブ漫画は、令和６年度に保護者の方へ小１になるにあたって不安なことについてアンケートを取っており、その中で多かった４つの内容を中心に、具体的には、登下校の安全確保や放課後の居場所、子どものメンタルケア、長期休業期間中の子どものお世話などについて行政や地域で用意している取組内容を紹介している。よって、小学校入学直後や、夏休みも含めて幅広に取組を紹介する内容となっている。<br>長谷川座長：チラシも漫画をちりばめていたり、これからどんなことが始まるのか分からない、そういった不安に寄り添うようなすばらしい内容になっている。学童保育とキッズの違いも入れてあり、選択できる情報を提供してあって嬉しいと思っている。小学校に上がるお子様たちに、年長の頃から、小学校に入ってからのイメージがしっかりと伝わるようなものを引き続き啓発してほしい。<br>　タッチーくんの魅力向上事業について、今年度はポロシャツが発売されて、街の中で多くの方がポロシャツを着ていてお互い目を合わせてにっこりすることもあるが、このポロシャツ以外にも今後、グッズの販売や、タッチーくんの啓発をどのようなことに取り組まれていくのか聞きたい。<br>櫻井区政推進課長：タッチーくんについてはご好評いただいており、グッズ等の関心も高いと思っている。今後はエコバッグの作成を検討 |

| | |
|---|---|
| | している。区民の皆様にもかなり愛着を持っていただいて、キャラクターとして一定の認知があると認識しているので、今後も様々な機会を捉えて露出の機会を増やし、栄区への愛着形成の一助を担うよう考えている。<br>長谷川座長：至るところにタッチーくんがいると、栄区は本当にタッチーくんを愛していることと、誰もが知るキャラクターとして確立した存在ということを実感しているので引き続き皆様に気軽に身につけていただけるようなグッズ展開をしてほしい。<br>17 ページの空き家の問題について、本当に全国的に大きな問題となっている。こうした啓発をしていただき未然に防ぐということも大変重要なことだと思っているが、私も街を歩く中で、既に空き家になって何年もたっているような物件を見る。現在、数年間空き家になってしまっている物件に対してのアプローチや、所有者に対してのご提案等、一歩踏み込んだことを行っているのか。また、既存の空き家として数年たってしまったものに対する手立て等今のところ何かあるのか。<br>櫻井区政推進課長：例えば昨年度は、自宅をお持ちの方や相続予定者の方に、空き家問題を身近に感じていただいて、自宅や実家の将来について考えるきっかけとするため、セミナーや相談会を実施している。好評だったと聞いており、実家片づけアドバイザーの方を相談員として、実家や自宅の片づけのお悩みに対応した。空き家の未然防止対策という形で、直接、空き家対策に結びつくものではないが、きっかけづくりも含めて対応を図っている。今年もそういった取組の実施を考えているが、その他我々も個別の相談を受けるので、その都度対応していく。<br>松永区長：既に空き家になっているところについての質問もあったが、家のことになると個人の財産になるので、こちらがアプローチするのはなかなか難しいが、地域の意見交換会等で庭の樹木が道路にはみ出て通行人が危ないのではないかというご意見を頂くこともある。その際は現地を確認し、勝手に切るわけにはいかないので、道路上の安全が確保できないときには、まずは管理していただけるよう手紙を投函するなど、少しずつできることでアプローチしている。<br>長谷川座長：そういったセミナーや相談会に来ていただける方は意識が高 |

| | |
|---|---|
| | く、空き家をつくらないような方たちと思っているが、一方で、もうできてしまった空き家に対するアプローチは、今、区長も話されたとおり個人の所有物で、プライベートなことなので、踏み込むのがなかなか難しいと思う。イベントや空き家の相談会の通知を所有者の方に送り、それをきっかけに空き家について少し考えてもらう機会や、どうにも一人で抱えきれない悩みを相談する場としてつながると思っている。ぜひ今ある空き家に対して区でやっていることを所有者の方に情報提供してほしい。<br>輿石議員：今も空き家の話をしていたが、何年か前に横浜市でもマッチング制度を始めた。栄区での活用状況や、横浜市ではまだ空き家バンクをやっていないが、空き家バンク制度の他の自治体の状況等、ある程度、栄区が独自に抱えていて、同じ空き家と一言で言っても、横浜の中心地にある木造密集地の空き家と、比較的整備された住宅街における空き家とは違うと思う。栄区の個性も踏まえた上で、空き家バンクの可能性やマッチング制度の利活用等、そういう踏み込みはしているか。先ほどの執行状況のことも含めてバス停の上屋以外にも空き家に関しての執行状況で、何かもっとこうしたかったのにみたいなことがあるのかなというのが気になる。<br>松永区長：空き家対策は市でマニュアルがあり、所有者個人の方に、管理が不足するような空き家に対してお手紙を出してお知らせすることはできるようになっており、取り組んでいるところ。空き家バンクやマッチングは勉強不足で、そういったところについては、少し勉強して考えさせていただきたい。<br>輿石議員：今、一人暮らしで樹木がどうにも手に負えないという方が爆増している。先日も、電線に引っかかってショートするということがあったが、そういう樹木は、東電に言ったら切ってくれることも皆さんは知らないし、そこまでいけば切ってくれるが、その手前の段階で防犯上という声がものすごく上がっている。それを公助の視点で何かできるかできないか。既存のルールの中でできないから現状こうなっているため、少し予算の使い方ということで、所有者のいる家に対して何かできることというのは公助・共助の視点で考えると思う。新しい予算編成で踏み込んでいたと思うが、何か考えを深めていくようなプラットフォームを、区長を |

| | |
|---|---|
| | 中心につくれないか。<br>松永区長：今この時期に合わせて地域との意見交換会をやっているのは、予算に生かそうと思ってやっている部分もあるので、こちらでできることは予算の事業の中に取り入れていきたい。どうしても局でないと解決できないことについては、区提案反映制度だと次の年になってしまうが、局にも意見を上げていくなどしてやっていきたいと思っている。ただ、家というのは、最初に申し上げたように財産にかかる部分なので、どのぐらいまで踏み込めるのかは本当に悩ましいが、いろいろな事例を勉強しながらできることを考えたい。<br>大桑議員：予算の使い方の部分で、先ほどからバス停や空き家、防災、40周年が終われば今度はいよいよ横浜グリーンエクスポだが、それらが終わったあとの予算が浮いてくると思うがどのように使うのか。また、先ほども言ったクラウドファンディングと 40 周年の 1000 万を、もちろんどんどん拡充していってほしいと思っていて、流用するのがいいことだと思わないが、うまくミックスして使ってもらって、バス停とかそういうところでできればいいけれども、やはり区民の要望もあったり、そういう意見の拾い方も難しいと思うが、区民がどこを本当にやってほしいのかというところをうまくつかんでもらって、的確に予算を使ってほしい。７年度の決算、今、８年度が走っていて今度は９年度になっていき、うまく橋渡しをしてほしいと思っているが、区長から一言頂きたい。<br>松永区長：この会議の意見や地域との意見交換会等で、日頃から栄区に暮らしている方々の目線でのお話を頂くことができている。それらを参考にしながら、予算や次に向けてどうしていくのか等、長期的に考えていかなければいけない課題もあると思うので、いろいろ勉強しながら組み立てていきたい。<br>輿石議員：地域防災拠点支援事業を 34 ページに挙げてもらっているが、拠点に限らず、やはりここ数年で新たな防災のステージにランクアップしていかなければいけないというのは国民がみんな思っていることだと思う。防災庁の予算も大幅拡充で、８桁、９桁という世界に突入しているが、そういう中で足元を見てみると、地域防災拠点が物理的に機能できない。体育館が拠点を受けている |

| | |
|---|---|
| | が、野七里小学校跡地の拠点問題、公田小学校の建て替えに１年以上かかる問題等、拠点としてなかなか難しい。物理的にそういうのが起こっている。コロナの後、運営委員会がお休みしていた分、拠点の立ち上げが難しい。ＨＵＧ等やっているが、もう一歩、今、冒頭言った物理的な問題をどう解決していくのか等、今の段階で話合いという枠の中で何か進んでいるのか。<br>宍戸総務課長：野七里の件については、前回もご意見を頂き、目に見えるようには進んでいないが、拠点の区域の見直しをしている中で、野七里を使う拠点の皆様からは、より深く意見を聴くようにして、新しい区割りにできるだけ反映させていこうと思っている。それから、拠点という意味では、前回も在宅のことを考えてほしいという話があったと思う。令和８年第１回市会定例会の中で、局も物資の支援については、拠点だけでなく、物資を確保する拠点を別途考えていきたい、検討していきますという答弁をしている。局がやるのであれば、区としてもより強く野七里のことについて考えてもらうため、教育委員会等にこれまでよりも強く働きかけていきたいと考えている。<br>輿石議員：町内会から手が挙がってこないからなかなかという話があったが、声を上げていかないといけないという仕方のない側面があるので、区から積極的に、ほかの区の状況を横並びに見るのも大事だが、住宅が８割を超える栄区の特性をしっかりつかんで、在宅にいながら拠点を活用していくという新しく踏み込んだ視点を提案していくような覚悟でやっていけば、ほかの区の人たちも参考についてきてくれ、次の時代を切り開いていく栄区らしい防災ができると思うので、その辺はぜひよろしくお願いしたい。<br>長谷川座長：48 ページにある５の「環境と共生し、魅力ある豊かな緑を育てるまち」ということで、今回は横浜グリーンエクスポを中心に予算が組まれているが、私は上郷瀬上地区の緑の保全に対しても区がしっかり行っていってほしいと思っている。民間会社が大きくこの土地のエリアを所有されていると思うが、市で所有している部分や市民の森の部分に関しては、市もしっかりやってくれていると思うが、区が区としてしっかり区民に還元できるような形で、いろいろと先頭を切ってやっていただければなと思っている。この部分に関わるところで、どこかに瀬上の環境や協働で何 |

| | |
|---|---|
| | か行っていけるようなところがあるか聞きたい。<br>櫻井区政推進課長：当該地に関しては、具体的な土地利用については都市整備局が協議していると聞いている。このような状況も含めて、我々も状況を把握しながら、できることがあれば対応していきたい<br>長谷川座長：せっかくの横浜グリーンエクスポで、環境と共生しということなので、こちらの緑も活用し、区で一段と盛り上げていけたらなと思っている。<br><br>会議報告書の作成については座長一任。了承 |
| 備　　考 | |